

不相傳の僻見にて候歟。去文永年中仁此書の相傳は整足して貴邊仁奉候しが、其通を以可有御教訓候。所詮、在在處處仁迹門を捨よと書て候事は、今我等が讀所の迹門にては候はず。叡山天台宗の過時の迹を破候也。設如天台傳教法のまゝありとも、今至末法者去年の曆如。何況自慈覺已來迷大小權實大謗法同をや。然間像法時の利益無之。増於末法耶。

一北方の能化難云、爾前の經をば未顯眞實と乍捨安國論には爾前經を引、文證とする事自語相違と不審事、前前申せし如し。總じて一代聖教を大仁分て爲二。一大綱二網目也。初の大綱者、成佛得道の教也。成佛教者法華經也。次網目者、法華已前諸經也。彼諸經等は不成佛教也。成佛得道文言雖說之、但有名字其實義法華有之。傳教大師決權實論云、權智所作唯有名無有實義云云。但於權教成佛得道の外說相不可空。爲法華網目なるが故仁。所詮、成佛大綱を法華仁說之、其餘の網目は衆典明。爲法華網目なるが故仁法華の證文引之可用也。其上、法華經にて可有實義を、爾前の經仁して名字計のゝしる事、全爲法華也。然間、尤法華の證文となるべし。問、法華を大綱とする證如何。答、天台當知此經唯論如來說教大綱不委細

綱目也。問、爾前を綱目とする證如何。答、妙樂云、皮膚毛綵出在衆典云云。問、成佛限法華云證如何。答、經云、唯有二乘法、無二亦無三文。問、爾前爲法華證如何。答、經云、雖示種種道、其實爲佛乘。委細雖申度候、心地違例して候程、令省略候。恐恐謹言。

十一月二十三日

日 蓮花押

富木殿御返事

帥殿物語しは、下總に目連樹と云木の候よし申候し。其木の根をほりて、十兩ばかり、兩方の切目には焼金を宛てて、紙にあつ(厚)くつゝみて、風ひかぬ様にこしら(拵)へて、大夫次郎が便宜に給候べきよし御傳あるべく候。